

2. 委員が品位損傷、長期不参加等委員の職務を遂行するのに不適合だと判断される場合
3. 委員本人が辞職を希望する場合

第9条(会議)①各委員会の会議は、次の各号の1に該当する時、委員会別に委員長が招集する

1. 各委員会の委員長が必要と認めたとき
 2. 各委員会の在職委員3分の1以上の招集要求があったとき
- ②各委員会の会議は、在職委員の過半数の出席により開議し、案件審議は出席委員の過半数の賛成で決定する

第10条(幹事と書記)①本委員会及び企画調整委員会の効率的な運営の為、委員会別に幹事と書記各1名を置く

- ②各分科委員会の効率的な運営のため、分科委員会別に幹事1名を置く

第11条(意見聴取)①各委員会は業務遂行に必要と認められるときは、専門機関又は関連団体等に調査・研究を依頼し、公聴会・セミナー等を開催し、関係専門家及び市民の意見を聞くことができる

- ②各委員会は、業務遂行に関連して必要な時は、関係公務員・専門家又は、案件と関連のある市所属の他の委員会の委員を会議に参加させ、意見を聞いたり、資料提出等の協力を要請することができる

第12条(活動支援等)①市長は、委員会の業務遂行が円滑に推進されるよう、人力・装備・施設及びそのほかの必要な支援をすることができる

- ②市長は、第11条の規定による調査・研究及び公聴会・セミナー開催等にかかる経費を予算の範囲内で支援することができる
- ③市長は、各委員会の会議に参加したり、委員会の活動に参加する委員及び第11条第2項の規定により会議に参加した者に対し、予算の範囲内で会議参加手当・案件検討手当及び旅費等の実費を支給することができる。但し、公務員がその職務と関連し、会議に参加したり、案件を検討する場合は、これによらない
- ④市長は委員会の事務を処理する者に予算の範囲内で実費を支給することができる

第13条(施行規則)この条例の施行に必要な事項は規則で定めることができる

附則

この条例は公布された日から施行する

参考文献

- 2005 年 12 月 9 日クレアソウルセミナー 資料
講師 前清溪川復元推進本部 復元管理担当官 金敬吾氏
- 「わかりやすい市民白書 清溪川」 ソウル特別市
- 「清溪川復元」 清溪川文化館
- 「清溪川、都市再生と未来ビジョン」 清溪川復元 1 周年国際学術会議、2006.10.2
- 「清溪川復元工事対応交通処理総合対策」 ソウル特別市、2003.2
- 「清溪川復元事業」 清溪川復元推進本部（復元事業担当官）、2005.10
- 「清溪川復元事業白書」 ソウル特別市（広報企画官）、2006.6
- 「清溪川アカデミー教材Ⅱ 葛藤管理」 清溪川文化館、2007
- ソウル市ホームページ <http://cheonggye.seoul.go.kr/>
- ソウル市中区ホームページ <http://tour.junggu.seoul.kr/>
- ソウル施設公団ホームページ <http://www.sisul.or.kr/>

執筆者

西鶴康代所長補佐（2005 年 4 月～2007 年 3 月 ソウル事務所勤務）

「日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)」は、河川・流域再生に関わる事例・経験・活動・人材等を交換・共有することを通じ、各地域に相応しい水辺再生の技術や仕組みづくりの発展に寄与することを目的として、2006年11月に(財)リバーフロント整備センターが設立した団体です。また、「アジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)」の日本窓口として、日本の優れた知見をアジアに向け発信し、同時に、アジアの素晴らしい取組みを日本国内に還元する役割も担います。

目次	Pages
➤ 事務局活動報告	1
➤ 研究・事例の紹介	4
➤ 会員寄稿記事	8
➤ 会議・イベント案内	9
➤ 冊子・ビデオ等の紹介	9
➤ 会員募集中	10

巻頭書記

JRRN が設立されてまもなく 3 年を迎えますが、個人会員が 8 月末時点で約 360 名、また団体会員も 11 団体に達しました。JRRN では、更にネットワークの拡大を図りながら、国内及びアジアの河川再生に関わる情報・技術の橋渡し役を目指して参ります。

本号では、8 月中旬に韓国・仁川で開催された「第 2 回 ARRN 情報委員会・技術委員会」及び「世界都

市水フォーラム 2009」への参加報告、また韓国出張時に訪問したソウル市内を流れる清溪川の現在の様子を写真中心にご紹介致します。

今後も、国内外の積極的な情報共有と人材交流を目指して参りますので、引き続き、JRRN 会員の皆さまのご支援とご協力をお願い致します。

事務局活動報告(1)

「第 2 回 ARRN 情報委員会・技術委員会」開催報告(韓国・仁川)

2009 年 8 月 17 日(月)、アジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)の「第 2 回情報委員会」及び「第 2 回技術委員会」が韓国・仁川にて開催されました。

「情報委員会」は、ARRN の今後の活動内容や情報循環策について議論する場、「技術委員会」は ARRN として保有すべき技術やアジア版河川再生ガイドラインのあり方について議論する場として位置づけられており、第 1 回委員会は 2008 年 9 月に中国・北京市で開催されました。



委員会の様子

今回の情報委員会では、第6回世界水フォーラム(2012年3月)までのARRN中期活動計画やネットワーク拡大に向けた組織体制の話題、またヨーロッパ河川再生センター(ECRR)との今後の連携などについて議論を行いました。また、技術委員会においては、最新の各国の河川環境の話題を交換の後、2009年3月に発行した「ARRN河川再生ガイドライン ver.1」の今後の発展方針等について、活発な意見交換を行いました。

<参加者>

(ARRN情報委員)

伊藤一正(財団法人リバーフロント整備センター・株式会社建設技術研究所)、Hong Koo Yeo、Hong Kyu Ahn
(代理出席: KICT 韓国建設技術研究院)

(ARRN技術委員)

白川直樹(筑波大学)、Hong Koo Yeo、Hong Kyu Ahn
(代理出席: KICT 韓国建設技術研究院)

(オブザーバー)

Chanwan Kim (KICT 韓国建設技術研究院、KRRN 事務局長)、Kooil Kim (韓国河川協会会長)

(JRRN/ARRN事務局)

沼田彩友美、後藤勝洋、和田彰

残念ながら中国は欠席でしたが、ARRNの活動展開を方向づける議論ができたと感じております。今回の協議結果を踏まえ、2009年9月に韓国・ソウル市で開催される「第4回ARRN運営会議」に向けて、ARRN事務局として日中韓関係機関との調整を行っていきます。

委員会の詳細は以下のホームページをご覧ください。

<http://www.a-rr.net/jp/info/letter/report/1390.html>



(JRRN事務局 沼田彩友美)

事務局活動報告(2)

「世界都市水フォーラム 2009(WCWF)」参加報告

2009年8月18日(火)～21日(金)にかけて、韓国・仁川市の松島国際会議場(Songdo ConvensiA)を会場に「世界都市水フォーラム WCWF2009」が開催され、水問題に関わる専門家・約5000人が参加し最新の情報・技術の交換が行われました。

韓国・仁川市では、8月～10月の3ヶ月間にわたり「仁川世界都市祝典」が開催中で、本フォーラムは、この行事の一環として都市の水問題解決を目的に実施されたものです。

JRRN事務局では、本フォーラムでの論文発表を通じARRN及びJRRNの活動を参加者にPRすると共に、河川再生分野の関係者の方々との意見交換を行ってきました。また河川再生に関わる各種講演会に参加し最新の知見を収集して参りましたので、現地での活動の概要をご報告させていただきます。

World City Water Forum 概要

- テーマ: 「水と都市の革新と調和 ～仁川で水の色が変われば韓国の都市が変わる」
- 参加者: 国内外水関連専門家、学生、政府機関、学会など50カ国から約5,000人
- 目的: 水関連災害の予測および予防を図る全世界的な情報共有および対策づくり。及び国際的な水関連ネットワークを仁川を中心に構築し、仁川を北東アジアブルーゴールド産業の中心地として育成するため。
- 主催者: 仁川広域市 / 漢江水系管理委員会 / 仁川世界都市祝典組織委員会
- 共催者: 世界都市水フォーラム組織委員会 / 韓国水フォーラム / 仁川地域環境技術開発センター
- 後援: 環境部 / 国土海洋部
- 併催行事: 仁川環境技術展示会

■ WCWF 開会式の様子

8月18日（火）午前 WCWF 開会式が盛大に開催され、WCWF 実行委員長や開催地を代表して仁川広域市長から挨拶が述べられました。



開会式典の様子（実行委員長挨拶）

開会式での特筆すべき内容は、前・韓国水フォーラム会長で、気候変動に関する政府間パネル (IPCC) でも要職を務められた現・韓国首相の韓昇洙(ハン・スンス)氏が来賓として招かれ、韓国政府としての水問題への取り組みの優先度の高さを参加者にアピールしていた点があります。また、「気候変動と水問題」という基調講演では、日本における国土交通省に相当する「国土海洋部」ではなく、日本の環境省に相当する「環境部」大臣である Maanee Lee 氏が担っていた点も、日本と韓国の水行政の違いの一端を垣間見ることができました。

■ JRRN/ARRN 事務局からの論文発表

8月19日（水）午前開催された「都市の河川再生セッション（Restoration of Urban Stream Amenity）」において、ARRN/JRRN 事務局の沼田より「TREND IN URBAN STREAM RESTORATION IN ASIA AND DEVELOPMENT OF INTERNATIONAL NETWORK FOR KNOWLEDGE AND TECHNICAL INFORMATION EXCHANGE」と題した論文発表を行い、参加者にネットワークの普及を図るとともに、日本・韓国・スイスなどのセッション参加者と様々な意見交換を行いました。



JRRN/ARRN 事務局発表の様子

■ 河川再生関連セッションの参加

本フォーラムでは、テクニカルセッションとスペシャルセッションの二本立てで最新技術・研究・事例に関する論文発表が行われました。各セッションの主なテーマは次の通りです。

【テクニカルセッションのテーマ】

水と地球温暖化、都市における水インフラのモデリングと最適化、地下水の利用と管理、水資源の管理と政策、洪水と干ばつ、河口堰、ダム、沿岸の水管理、上水道、水文学、水理学、河川ガバナンス、流域統合管理、雨水管理による気候変化適応策、都市の河川再生

【スペシャルセッションのテーマ】

水生生態再生、洪水マップと保険、ユビキタス都市と水情報科学、都市インフラ発展のための官民協力、水の再生とグリーン革命、DHI 社の MIKE を用いた世界都市水モデリングと適用事例、水関連の災害と管理、水と交通と都市、韓国の水環境政策と適用、水と健康とエネルギー

様々なテーマがある中で、特に水災害管理や気候変動に関するセッションが、他のテーマに比べ参加者の注目を集めていたように感じました。本年3月にトルコで開催された第5回世界水フォーラムの時と同様に、水分野の国際会議においては、「水と気候変動問題」が最優先で解決されるべき問題であることを改めて認識できました。

JRRN 事務局では、河川環境再生に関連するセッションとして、「都市の河川再生」及び「水域生態再生」のセッションを中心に参加しましたので、その概要を以下にご紹介させていただきます。

①都市河川再生セッション

●テーマ：「Restoration of Urban Stream Amenity」

●開催日：8/18（火）～8/19（水）

全 24 編の論文が発表され、内 13 編が韓国、8 編が日本、そして中国とスイスという構成でした。

韓国からは、河川環境再生に関わる技術指針、合意形成手法、流れの解析、河川環境評価指標、河川再生事業の地域経済評価、再生事業実施後の自然再生モニタリング事例、また自然再生と親水性に関わる考え方など多岐に及ぶ論文が発表されました。一方、日本からは、各地域における行政や市民団体による河川環境再生の具体事例紹介が中心に発表されました。また、ヨーロッパの近自然工法の父と称され、日本とも縁の深いスイス・ゲルディ先生によるスイスの河川再生事例に関わる講演は特に参加者の高い関心を集めていました。

②水域生態再生セッション

●テーマ：「Aquatic Ecosystem Restoration」

●開催日：8/20（木）～8/21（金）

本特別セッションでは、全 36 編の論文が発表され、内 23 編が韓国と開催国中心の構成でした。

湿地再生や稀少鳥類の復元を目的とした事業紹介、また魚類や水域生態系の再生を中心に、①で紹介した都市河川再生セッションが土木系機関からの発表が多かったのに対し、本セッションは環境省系団体や大学研究者が中心に構成され、より生態学に根ざした発表が多いのが特徴的でした。土木系と環境系、すなわち工学と生態学の間に若干の溝の存在も感じましたが、日本における応用生態工学会や河川生態学術研究会を始めとする、両分野の積極的な融合に向けた取組みが韓国でも今後益々期待されます。

（JRRN 事務局 和田彰）

研究・事例の紹介

韓国・清溪川からの報告 ～再生事業完成からまもなく 4 年を迎えて



再生事業前の清溪川を覆う高速道路
（第 4 回 ARRNI 国際フォーラム資料より引用）

高速道路を撤去しかつての川を復元させることを公約に 2002 年にソウル市長に当選したイ・ミョンバク市長（現・韓国大統領）指揮の下、2 年 3 月の工期を経てソウル市中心部に約 30 年ぶりに清溪川が復元されたのは 2005 年 10 月 1 日の出来事でした。大都市での河川再生の成功事例として、アジアのみならず、世界的に注目を浴びたこの再生事業ですが、完成からまもなく 4 年を迎えようとしています。

事業完了後も継続して清溪川の生態環境や周辺環境のモニタリングが行われ、WCWF2009 では以下のような様々な環境改善効果が報告されていました。

- ・再生事業前の生物相が 17 のみだったのに対し、再生後 2 年で約 400 種まで増加。
- ・植生が自然河川に近付き、生物多様性が順調に増しており、一方で他の都市河川より外来種が少ない。
- ・夏場に周辺地域の気温低減に寄与している。
- ・工事完成後以降、水質改善（BOD）も図られている。

（出典：ECOLOGICAL RESTORATION UNDER PROGRESS IN SEOUL'S CHEONGGYE STREAM IN KOREA, TC-F2-3, WCWF2009）

JRRN 事務局では、2009 年 8 月 21 日（金）に清溪川の現地視察を行ってきましたので、写真を中心に再生事業完成から間もなく 4 年を迎える現地の様子をご報告させていただきます。

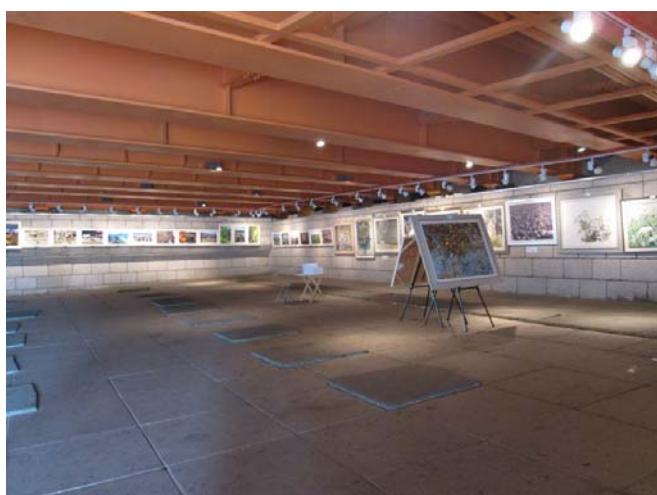
（次頁からの写真は上流から下流の順でご紹介しています）



清溪川の最上流部付近の賑わい



川の横断は大渋滞



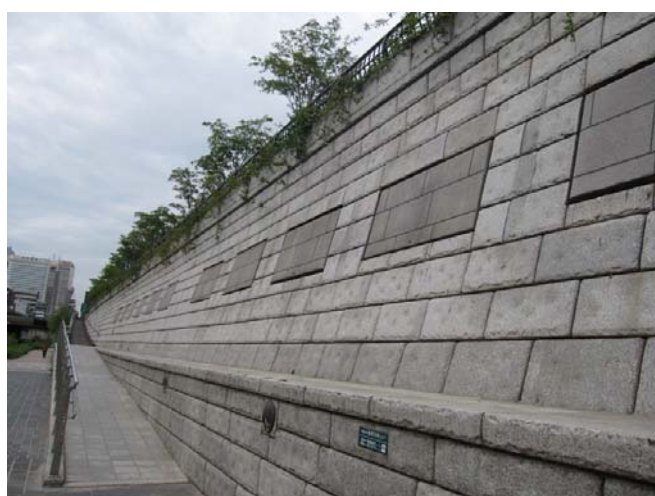
橋梁の下のアトリエ



川の中に設置された噴水



滝で覆う排水幹線合流部（写真左側）



平常時は閉じている雨水吐



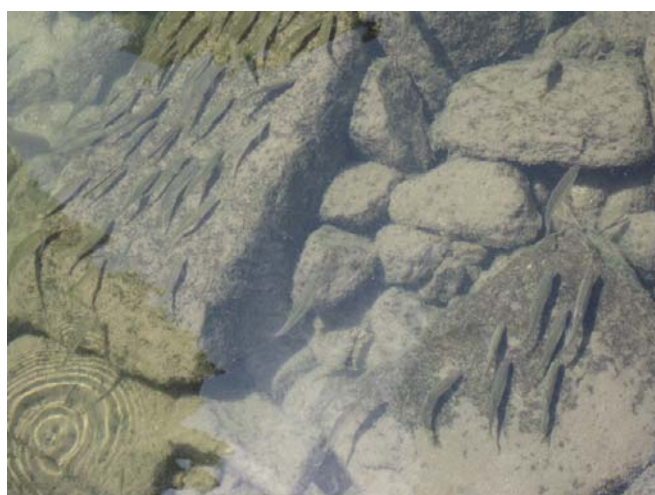
清溪川の川ガキ達



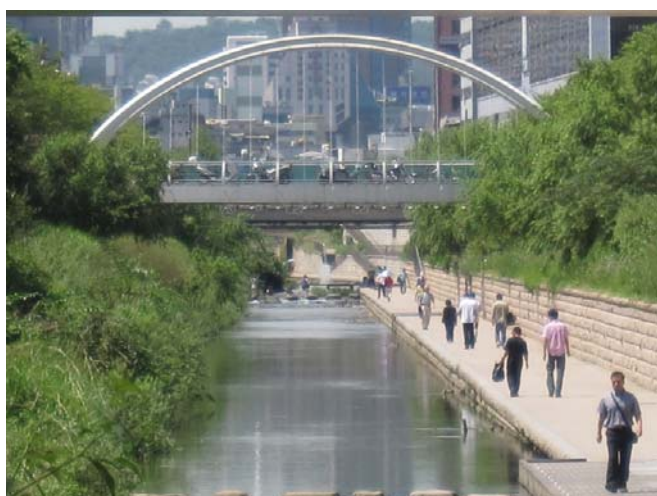
沿川には高級マンションも連立



地元の子供の遊び場に



あちこちで見かけた魚の群れ（カワムツ）



川沿いは市民の移動ルート



バリアフリー施設